

## 《カリキュラム・マネジメント評価表》

学校番号	高等学校名	課程	指定事業等(国・県ほか)
28	県立海洋高等学校	全日制	

重点度	項目	現状分析と課題【R4】	目標【GOAL】	取組【PLAN】⇒実施状況【DO】	検証【CHECK】 成果	対応【ACTION】 次年度【R4】への課題と取組の方向性
1	学習指導 (教育課程)	【現状】 ・教科横断的な学習を効果的に進められていない。 ・基礎学力が定着していない生徒が多く、自ら考えたり調べたりすることが苦手である。 ・基本的に学習意欲が低く、水産海洋関連の目的意識も低い生徒が多い。 【課題】 ・昨年度の学習意欲が低く、水産海洋関連の目的意識も低い生徒が多い。 ・基礎学力の定着を図るため、教科横断的な学習を効果的に進める必要がある。	高校生のための学びの基礎診断 ・「数と式の計算」の正答率がC評価以上の生徒の割合 10%増 * ・「論理的文章(評論)」の正答率がE評価の生徒の割合 10%減 * ・教科横断的な学習の取り組みを行う割合 20%増	・基礎学力が低い生徒へきめ細やかな指導を行うため、補講等は班を分けて少人数で対応した。⇒○ ・教科横断的な学習の取り組みとして、海洋食品科と数学科の取り組みを行った。 ・その他、各教科において横断的な取り組みを実施。⇒○	高校生のための学びの基礎診断 ・「数と式の計算」の正答率がC評価以上の生徒の割合 3%増 ・「論理的文章(評論)」の正答率がE評価の生徒の割合 40%減 ・教科横断的な取り組みについて発信することによりマスコミ等に取り上げられ、生徒の学習意欲が向上した。	【課題】 ・多様な生徒が入学しているため、一人ひとりのきめ細やかな対応が難しい。 【取組の方向性】 ・T.Tの授業を有効に活用して、多くの人の目と手で対応することが必要。 ・教科横断的な取り組み、企業との共同開発、ICTを活用したマサバの養殖事業、ドリームバスなどの新しい取り組みに挑戦し、結果を出している生徒がいる。このような取り組みは、今後も積極的に行っていく。
	生徒の授業満足度	【現状】 ・授業への満足度については、概ね満足している様子が見える。 【課題】 ・昨年度の授業に係るアンケートにおいて、「コンピュータやタブレットなどを活用し、学びの進め方を工夫している」に対し、おおいに当てはまると答えた生徒は30%程であった。	・授業への満足度の向上。10%増 *	・「わかった」「できた」の体験を授業の中で感じられるよう各教科担当がそれぞれに工夫した。⇒○ ・授業に係るアンケートにおいて、「コンピュータやタブレットなどを活用し、学びの進め方を工夫している」に対し、おおいに当てはまると答える生徒の割合を増やす。20%増 *	・生徒へのアンケートの結果、授業への満足度の増加には繋がらなかった。2%減 ・生徒へのアンケートの結果、「コンピュータやタブレットなどを活用し、学びの進め方を工夫している」と答えた割合が34%と昨年度と比較し大幅な増加にはならなかった。4%増	【課題】 ・一斉授業では多様な生徒に対する指導が困難な場合があり、どのレベルに焦点をあてて授業を行うが難しい。 【取組の方向性】 ・生徒へのアンケートの結果、「コンピュータやタブレットなどを活用し、学びの進め方を工夫している」と答えた割合が34%と昨年度と比較し大幅な増加にはならなかった。4%増
2	進路指導 キャリア教育	【現状】 ・昨年度は、コロナ禍で進路行事が中止や延期を余儀されるなか、水産海洋関連企業への就職60%海洋関連学校への進学0%の結果を残した。 【課題】 ・水産海洋関連企業(水産食品)の新規開拓。 ・療育手帳等及びその疑いのある生徒への進路対策が必要。	・水産海洋関連企業への就職 60% * ・水産海洋関連学校への進学 50% * ・水産海洋関連企業(水産食品)の新規開拓 100% ・ハローワークや教育相談等主催の職員研修に参加 100%	・進路行事実施に向けた取組⇒○ ・水産海洋関連企業新開拓に向けた取組⇒○	・水産海洋関連企業への就職 46% ・水産海洋関連学校への進学 71% ・新規水産海洋関連企業から複数の求人が頂き1名が内定をした。(増養殖業)	【課題】 ・支援を必要とする生徒の就労については、生徒、保護者理解のもとハローワーク、各自治体等の支援部署と密に連携する。また教員向けの研修会も実施する必要がある。 【取組の方向性】 ・生徒の進路意識を向上させ、進路実現につながる支援を行う。 ・水産海洋関連企業への就職、水産海洋関連学校への進学割合の継続的拡大を図る。
	生徒指導	【現状】 地域に愛される海洋高校生を目標に、身だしなみと挨拶を重点的に指導して一定の成果を上げてきた。人権に配慮し、時代に応じた生徒心得、賞罰規定、交通規定等について、引き続き見直し、改正を行う必要がある。 【課題】 身だしなみと挨拶について継続的に指導するとともに、各規定等については、引き続き共通理解を図りながら見直し、改正を行う必要がある。	・身だしなみと挨拶について継続的な指導を行う。 ・各規定の改正と見直し 100%	・身だしなみと挨拶について継続的な指導を行う⇒○ ・各規定の改正と見直し⇒△	・朝の立哨指導、下校路指導、列車乗車指導等を通して、全職員により指導へ取り組むことができた。 ・各規定について、令和3年度に大幅に見直しした。その後の修正等を進めている。	【課題】 ・各規定については、今後もして改正と見直しを行って行く必要がある。 ・地域に愛される海洋高校生を目標に、身だしなみと挨拶の指導を継続する必要がある。 【取組の方向性】 ・各規定の見直し、身だしなみと挨拶の指導を継続する。また、よりよい校則の在り方については、生徒が主体的に考え、取り組みに参画できるよう検討を重ねていく必要がある。
	特別活動 (部活動は含まない)	【現状】 コロナ禍で多くのイベントが制限される中、できる範囲内ではあるが、生徒会の自主的な運営は比較的良好にできている。 【課題】 昨年度は海洋祭やみんなの海洋高校プロジェクト、地域のイベントなど、生徒会が活躍できる多くの行事が中止となってしまった。	・学校評価の学校行事に関する生徒アンケートで、肯定的意見は70%以上に上る。 ・長引くコロナ禍で、行事の内容の見直しを含め、無理のない計画をたていく。	・クラスマッチ、野球応援、海洋祭と、主だった学校行事はすべて開催することができた。⇒○ ・コロナ禍ではあったが、制約のある中で3年連続でできていなかった野球応援や海洋祭の実施ができるよう計画をたてた。⇒○	学校行事についての学校評価アンケート結果は、十分満足であるが39.3%、満足であるが37.2%で合わせて76.5%が肯定的意見であり、70%以上という目標は達成できた。 ・野球応援、海洋祭ともに準備に時間がかかった部分はあるが、予定通り実施することができた。	【課題】 ・教職員の負担軽減、部活動の地域への移行などについて「部活動の運営方針(改訂版)」が県から発表され、対応が必要がある。 【取組の方向性】 ・近隣の学校と情報交換を行いつつ、活動時間や組織の位置づけ等、新しい部活動の在り方を検討していく。
	組織運営 (働き方改革)	【現状】 定時退勤を意識している割合は増えてきているが、結果的に定時退勤できない教職員は多数いる。 【課題】 働き方改革についての意識は徐々に高まっているが、引き続き、働き方改革を推進する必要がある。	・ICTを活用し、業務の負担削減を行う。 25%減 ・働き方の見直しを行い、軽減できることを増やす。20%軽減	・ICTを活用し、業務の負担削減を行う。⇒○ ・働き方の見直しを行い、軽減できることを積極的に行った。⇒○	職員朝会のGoogleclassroom上で行うことに加え、各種会議資料のペーパーレス化、提出書類のペーパーレス化、Googleフォーラムの活用により業務の負担軽減ができた。 定時退勤日を有効的なものにするために、定時退勤日には部活動や課外等は行わず、校務分掌や担任などの業務に専念した。	【課題】 ・働き方改革に対する感じ方に、職員間で温度差がある。 ・業務内容をそのままの負担軽減は限界がある。 【取組の方向性】 ・これまでのあたりまえだと思っていた業務を見直し、負担軽減を推進する。
3	教育環境 整備	【現状】 ICTを活用した授業が増えつつあるが、ICTを使用することが、必ずしも生徒の"より良い学び"のためになっていないこともある。 【課題】 ICTを活用した主体的で対話的な学習方法を模索し、生徒の"より良い学び"のためには、教員の更なる工夫や研鑽が必要である。	・すべての生徒、教職員がICTを活用した授業が行える。100% ・ICT活用に係るアンケートにおいて「コンピュータやタブレットなどを活用し、学びの進め方を工夫している割合が50%以上」と答える教員の数を増やす。20%増 *	・校務においてclassroomやスプレッドシート、formsなどを積極的に活用した。⇒○ ・積極的にICTを活用した授業を行った。⇒○	・全ての生徒及び教員がclassroomやスプレッドシート、Formsを活用して校務や授業で活用できるようになった。100% ・ICT活用に係るアンケートにおいて「コンピュータやタブレットなどを活用し、学びの進め方を工夫している割合が50%以上」と答えた教員の数が年度当初に比べ約25%増加した。	【課題】 ・多くの場面でICTを活用してきた。ICTを使うことだけでなく、どのように使うことが生徒の深い学びに繋がるのかを考える必要がある。 【取組の方向性】 ・今後は、生徒の学びをさらに良くするために何が必要か取捨選択していきながら、個別に対応できる方法も模索する。
	地域との 連携 (保護者、地域住民等)	【現状】 保護者や地域住民との交流については、予定通り実施できないこともあるが、感染症対策を配慮しながら少しずつ実施に向けて進んでいる。 【課題】 安全対策に取り組みながら、生徒の教育活動を維持するために、地域との交流や保護者参加の行事や、企業実習を行っていく必要がある。	・日々変わる感染状況の中ではあるが、地域や企業との連携を進める。 10%増 ・保護者の方々に参加していただける学校行事の実施。 30%増	・企業実習の計画を行った。⇒○地域イベントへ積極的に参加した。⇒○ ・学校行事への積極的参加を募った。⇒○	・円滑に企業実習を行うことができた。 ・イベントへの参加で地域貢献、連携を取ることができた。 ・多くの保護者の方々に、文化祭や研修旅行など学校行事に参加していただけた。	【課題】 ・感染症対策をしっかりと行った上で各イベントへの参加することが今後も必要である。 【取組の方向性】 ・感染予防を徹底し、今後は更に多くのイベントや、地域貢献、学校行事等に参加し、地域との連携を図っていく。
	保健管理 安全管理	【現状】 生徒及び職員の健康診断を計画的に実施。 教育的及び職場的な健康・安全を目的とした巡視活動の実施。 【課題】 受診の漏れ者対応、及び結果の活用を呼びかけ。巡視結果の効果的な活用。	・該当者の健康診断完了及び結果を踏まえた効果的な活用ができる状態にする。 ・校内の各場所が、安全及び健康的な活用ができる状態にする。	・年間計画の作成及び実施、実施予定の案内、事後結果活用案内 ⇒ ○ ・漏れ者への対応 ⇒ ○ ・健康管理医との校内巡視 ⇒ ○ ・巡視希望箇所の募集及び巡視の実施 ⇒ ○ ・管理職や事務との情報共有 ⇒ ○	・計画的に健康診断を実施できた。100% ・計画的に校内の巡視が実施できた。90% ・健診の漏れ者をなくすことが出来、該当者に事後活用のための通知等を行うことが出来た。100% ・事務との連携で、校内の改善につながっている。80%	【課題】 ・コロナ禍で行事をオンラインで実施したが、スムーズに実施できたものとうまくいかなかったものがある。そのため計画の段階から当日の進行を見通して準備をする必要がある。 【取組の方向性】 ・清掃用具、備品の点検、管理などに取り組んでいく。
	研修 (資質向上の取組)	【現状】 多様な生徒を指導するにあたって、必要な情報共有ができていない場面がある。 研修会に参加したくとも生徒対応などの校務が重なり参加できないことが多々ある。 【課題】 全職員が、多様な生徒を指導するにあたり必要な情報は全職員で共通認識する必要がある。	・多様な生徒の指導にあたり、情報共有を行う。100% ・職員研修の参加者を増やす。30%増	・年度当初に全職員で全生徒の情報共有を行った。⇒○ ・研修会というだけでなく、「オフサイトミーティング」と位置付けて肩ひじ張らない状態で、希望者のみの自主研修会を実施。アットホームな雰囲気の中、大変有意義な時間となった⇒○	・全職員で全生徒の情報共有を行ったため、授業を本格的に展開する前に生徒の特性を理解し、対応することができた。また、職員会議などの場でも、特に気になる生徒については情報を共有し、多くの目で見守ることができた。情報共有100% ・有意義な研修ができるよう、研修会は部活動を行わない水曜日にてできる限り設定するなど、多くの教員が参加できるよう配慮した結果、参加者を増やすことができた。15%増	【課題】 ・多様な生徒を指導する上で、情報共有は欠かせない。そのためにも、全生徒の状況や特性を把握できる場を設定するだけではなく、全職員が参加できるように一定の配慮が必要。 【取組の方向性】 ・今後も情報共有と研修が有意義なものとなるよう設定していく。
	情報提供 (広報、生徒募集)	【現状】 近隣の小中学生への最大のPRである"みんブロ"がコロナ禍により、実施できない状況が2年続き募集をかけているが集まっていないのが現状である。 【課題】 本校の良さを多くの人にアピールできるよう、HPやインスタグラムの取り組みを継続しつつ、新たな取り組みが必要と感じる。	・マスコミへの情報提供を行う。30%増。 ・本校の良さをアピールできる新たな取り組みを行う。20%増	・多くの行事で県への投込みを行った。⇒○ ・今年度、大型実習船および小型実習船の体験乗船会を実施した。⇒○	・今年度は、県への投込みを昨年度の1.5倍行い、多くのメディアに取り上げていただくことができた。鹿島丸出港式、さつま揚げ共同開発、ICTを活用したマサバの養殖等 情報提供50%増 ・体験乗船会は、初めての取り組みではあったが多くの方に参加していただき、参加された児童生徒およびその保護者には十分に魅力が伝わったと感じている。また、ボランティアで参加した本校生徒にも大変よい影響があった。新たな取組20%増	【課題】 ・今年度は多くの場面でメディアに取り上げていただくことができたが、継続して情報発信ができるためには、今後も努力する必要がある。 【取組の方向性】 ・限りある人材と資源の中で、有効的な方法を考える。

\*はKPI